

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901936		
法人名	医療法人社団旭豊会		
事業所名	グループホームライラック(東)		
所在地	北海道旭川市永山四条6丁目2番2号		
自己評価作成日	平成31年1月5日	評価結果市町村受理日	平成31年2月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901936-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成31年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が母体のグループホームの為、24時間安心して医療が受けられる体制を取れています。また、主治医による訪問診療を定期的に受け、必要に応じて病院での検査も受けられる対応ができています。
法人と地域の方と合同で行う盆踊りに参加したり、地域で行っている認知症カフェに出かけることで地域の方との交流の機会を作っております。
ホームの裏側に庭があり、サクランボの木や畑、花壇を設け春から秋にかけて入居者の皆さんと一緒にお世話をしたり、食事の中に収穫した野菜などを取り入れ季節を味わえるよう取り組んでいます。
その他に、夏祭りや敬老会、市内の七夕祭りへのくす玉出展、高齢者文化祭への出展など入居者の皆さんと一年を楽しく過ごせるよう支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭や地域との結びつきを大切にしながら、入居された方々のこれまでの生活・習慣・趣味・家族との絆を大切にをモットーに母体医療法人が運営する平成16年11月開設の鉄筋コンクリート造り平屋建て2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。
地域のきずなカフェや法人と地域との合同で開催する盆踊り参加等で地域の人々との交流を行ったり、高齢者文化祭や銀座商店街の七夕祭りのくす玉の出展、大型ショッピングセンターでの買い物や外食、永山神社祭や近隣の道の駅見物など普段では行けないような場所でも戸外に出かけられるように支援している。また、一人ひとりの生活歴や力を活かしながら、裏庭の畑での苗植えや花植え、職員と一緒に調理の準備や敬老会にはボランティアの協力を得ながら蕎麦打ちの実演など季節毎に楽しみごとや気分転換等の支援をしている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と方針を職員室に掲示し、スタッフそれぞれの名札にもコピーを入れいつでも確認できるようにしている。地域との関わり大切さも会議の時などに振り替える機会を設けている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げ、理念達成の為の具体的な目標設定を職員間で話し合い、その実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の古紙回収に協力したり、町内と合同で行う盆踊りに参加することで交流の機会を持てるようにしている。	地域のきずなカフェや法人と地域との合同で開催する盆踊り参加等で地域の人々との交流を行ったり、認知症サポーター養成講座への協力やボランティアの協力を得た蕎麦打ちの実演など地域との交流や連携に取り組んでいる。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや地域の方とともに認知症カフェのお手伝いをしたり、認知症サポーター養成講座の講師をさせてもらっている。また、運営推進会議でも認知症の勉強会を行っている。			
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では年に2回の避難訓練や行事などの機会を当てて、訓練に対する評価や、入居者の皆さんの生活状況やスタッフの関わり方も見て頂き、それに対するご意見をお聞きしその後の取り組みに役立てている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催して、事業所の取り組み状況や日常の生活の様子等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会の報告や手続きなどで不明な点は直接伺ったり、電話での連絡で相談し助言をもらうなどしている。	市担当者とは、日常業務を通じて情報交換を行い、指導や助言等を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で設けている抑制防止委員会に職員が参加していることと、今年からホーム内でも委員会を定期的に行い、年2回の研修も行っている。	法人内の抑制防止委員会への参加や内部研修会開催等で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括支援センターに協力頂き、ホーム内で虐待についての研修を行って貰ったり、日頃から入居者に対する口調や対応について気が付いたところがあれば話し合うようにしている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年入居した方が成年後見制度を利用されている方だったため制度について再確認し、不明な点はその都度聞くことでスタッフも学べている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時に重要事項説明書などを説明し、不明な点について確認したり、入居にあたって不安な点などもお聞きし、どのような対応ができるか説明し安心を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の説明の際に相談苦情窓口があることを伝え、外部の相談機関についても館内にポスターを掲示し説明している。日頃の会話からも要望を聞き出すようにしている。	家族や来訪者等が意見や要望等を言い表せるように相談苦情窓口を明示しており、そこでの意見等を運営に反映させるよう努めている。また、便りを定期的に発行して個々の情報提供をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションの中から出た意見を反映したり、月に一度のミーティングで集まった際に意見交換をし検討、実施している。	定例会議や日常業務を通じて、職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見やアイデア等を運営に反映できるよう努めている。また、就業環境の整備に努めて勤続年数の長い職員が多く在籍している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれのスタッフの休み希望や働き方などを尊重し、スタッフの得意なことを業務に役立てる様にすることで働きにやりがいなどを感じられるようにしている。また、法人の託児所があり、子供を預けられる安心もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や、外部の研修への参加もサポート。また、ミーティングの際に外部から講師を呼んでの研修も行っている。また、今年目標を個々に立てて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	包括主催の地域密着型サービスの定例会に参加し情報交換や交流を行い、職場内にもその内容が周知できるよう回覧している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の際に、ご本人やご家族に見学に来て頂き、館内や他の入居者さんの生活の様子を見てもらい、どのような生活が出来るかを見て頂き、その中でご希望や不安点を聞きホームで出来る対応を説明し、不安の解消に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に今までの生活状況や要望などを聞きとり、プランの内容に反映するなど、コミュニケーションを大切に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人がどのようなことを求めているかや、出来る事、出来ない事、ご家族の希望の聞き取りなどを行いご本人が苦痛にならないよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を見極め、出来るところは継続できる様に支援し、出来ないところを補う支援をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りで生活状況を報告し、来訪時にも都度生活の様子を伝えている。行事には案内を出し参加して頂けるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との外食の支援や、ご家族の希望時に自由に出かけられる環境ができており、自室にもなじみの物が置けるよう支援している。	近隣の酒蔵や商店への散策、ぎずなカフェで地域の人々との交流や地域のお祭り参加等で馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の皆さんは居室で過ごすことは少なく、大半は食堂で過ごされるため皆さんとゲームや歌などを楽しまれたり、集団活動が苦手でも人のいる雰囲気を感じられるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、その後もいつでもご相談などに乗れることを伝えている。他施設に入居の際にも必要な情報などがあれば伝える支援も行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の日常の生活状況をミーティングの時などに話し合い、個人にとって必要なこと、希望について暮らしに反映できるように検討している。	アセスメントの実施やカンファレンス等を通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を職員間で共有して、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の来訪時にご本人の今までの暮らし方や生活環境などを聞き、ご本人との日々の関わりの中でも新たな発見ができる様、観察を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々一人ひとりができる事や現在の心身状態を観察し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアプランの更新や毎月のミーティング時にスタッフを出し合い、ご本人やご家族の要望を聞き、アイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族の意向や要望、医師や在籍の看護師からの指導や助言、カンファレンスを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと連動できるよう個人記録にプランを添付し、いつでも確認できるようにしている。毎月のミーティングでも話し合い、プランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人とご家族の外出の際にタクシーの手配や連絡などを行っている。ご家族が遠方の方や高齢の為買い物にいけない場合は、買い物の代行も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事を行い大型ショッピングセンターに買い物、公園にピクニック、夏は銀座通り商店街のくす玉作りをさせてもらうなどで暮らしを楽しむ支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人病院の主治医による訪問診療を2週に一度受ける事で現状を把握して頂いている。日頃から担当看護師と連携が取れ、急な体調不良などにも主治医と連絡調整を行って貰っている。	母体医療法人との連携や看護師による日常の健康管理、往診の利用や通院への支援等で適切な医療を受けられるようにしている。また、受診は本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日は毎朝、担当看護師に状態を伝え、時間を問わずに連絡が取れる様になっているため適切な受診が受けられるよう支援できている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当看護師が入院時には病院の看護師、主治医に情報提供し、定期的の様子を見に行ったり退院のめどを確認するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明を行い終末期のあり方について早い段階でご本人、ご家族と確認を行っている。また、その時期に再度話し合いの機会を持ち、職員間で出来る限り希望に沿えるように支援している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを設定し、急変時の勉強会も行い、担当看護師や病院との連携についても確認作業をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々の参加を得て、年2回昼と夜を想定した火災訓練を実施している。また、冬季間の避難経路も確保している。	緊急時や急変時の研修会の開催や母体医療法人との連携を確認している。また、地域の人々の協力を得て、年2回の昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。	北海道胆振東部地震に伴うブラックアウト(北海道全域停電)を受けて、あらゆる災害に対応したマニュアルの整備を再検討しているので、その実践に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な言葉、態度などに気を付け、根気よく傾聴し一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。	接遇マナーや身体拘束廃止、高齢者虐待防止等の内部研修会参加等で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないように職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情の観察は常に行い、ケアの内容を記録、情報を共有し、自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	活動、レクリエーションなどご本人の興味のある物、取り組みやすい物を提供し一人ひとりのペース		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝や髪が乱れている時に声掛け行い整え、入浴後、外出時、行事などの時に洋服選びと一緒に支援している。男性は髭剃りなども毎日支援する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食材を配達してもらっており、翌日分の確認と仕分けを入居者さんと一緒に行ったり、モヤシのひげ取りなどの下準備をしている。誕生日ごとにご本人の希望献立を出すことにし、食の楽しみを持っていただけるようにしている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に盛付けや調理、食事等の準備をしている。また、誕生日には本人の希望する献立の提供をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立ててくれており、それぞれの方に合わせた調理も行っている。カリウム値の低い方にはバナナチップスやレーズンを補足したり、ナトリウム値の低い方にはご飯にごま塩を足すなど対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、磨き残しのある方は介助して口腔内の清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄周期を見極め声掛けを行っており声掛けも本人以外に気づかれないような配慮を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声掛けや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の調整をしながらも、体操や歩行運動で体を動かしていただき、スムーズな排便をうながしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ご本人の体調に合わせて日程をずらしたり、楽しく入浴していただけるよう声掛けなどを行っている。	週2～3回を目安に一人ひとりの希望やタイミングに合わせて柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態を見て臥床を促している。日中も眠気が見られる時や、体調を考慮して臥床時間を取るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時や変更時は記録や日誌に作用や用法を記録し周知している。温度版にも薬の説明書をとじており、いつでも確認できるようにしている。内服直前はダブルチェックも行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物、リネンたたみ、食材の仕分け、レクリエーション、製作など本人の興味のあることや取り組みやすい物などを提案し関わりを持っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	愛泉苑見学、永山神社祭、盆踊り、昼食作り、西イオンでのドライブ外食などの外出行事や、日頃の散歩でホームマック、お花見、旭泉苑中庭など近所への散歩なども行っている。	地域のきずなカフェや法人と地域との合同で開催する盆踊り参加、大型ショッピングセンターでの買い物や外食、永山神社祭や近隣の道の駅見物など普段では行けないような場所でも戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いなどは施設管理しているが外出時やご本人の希望があれば一緒に買い物へ同行し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望される方はほとんどないが、ご家族から電話があった時は静かな場所で話せるようにしたり、手紙を書くお手伝いを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の明るさ、温度は入居者の希望で都度対応している。行事や季節ごとに壁面飾りなどを入居者の皆さんと一緒に作成し季節感を感じられるようにしている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には、四季折々の飾り付けや行事参加の写真が飾られるなど季節感や生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席やテーブルの配置は入居者の皆さんの話しやすさや身体状況などに配慮しゆっくり過ごしていただけるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族との写真やご本人が作成した作品などを飾り、使い慣れたものなども置き、取りやすいように工夫を行っている。	居室には、安全に配慮しながら家族の写真の掲示や季節毎の飾りつけ、使い慣れた家具や日用品等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、食堂、廊下、トイレ、お風呂の手すりや案内板を作り、居室にも表札を付け、自立した生活が送れるように対応している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901936		
法人名	医療法人社団 旭豊会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ライラック(西)		
所在地	旭川市永山4条6丁目2番2号		
自己評価作成日	平成31年1月5日	評価結果市町村受理日	平成31年2月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosoCd=0172901936-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成31年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が母体のグループホームの為、24時間安心して医療が受けられる体制を取れている。また主治医による訪問診療を定期的に受けられるようになっており、必要に応じて病院の検査も受けられる対応が出来る。法人と地域の方と合同で行う盆踊りに参加したり、地域で行っている認知症カフェ、近くにある飲食店にソフトクリームを食べに行ったり、スーパーや薬局へ買い物に出かけることで地域の方と触れ合える機会を作っている。ホームの裏側に中庭があり、サクランボの木や畑、花壇を設けたり、入居者さんと一緒に寄せ植えた花を玄関前に飾り、春から秋にかけ一緒に手入れを行っている。その他に夏祭りや敬老会のご家族の方にも参加していただき一緒に食事することで交流を深め話のしやすい雰囲気や関係作りに努めている。七夕祭りのくす玉作りや高齢者文化祭への作品の展覧なども継続して行っており入居者のみなさんと一年を楽しく過ごせるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

Ⅴ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実践を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆さんがご自身のペースで毎日ゆったりと安心して過ごして頂ける事を理念にあげ、それを心掛けた支援が行えるよう、会議等で話し合ったり、ケアプランに刷り込んで共有できるように努力している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で町内会に入っており、運営推進会議や避難訓練の参加などをお願いしている、町内会で行っている古紙回収への定期的な協力も続けている、高齢者文化祭や七夕祭りのくす玉作りにも参加を続けている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でグループホームでの行事や生活の事、感染対策、災害時の避難、認知症の勉強会、事故の対策などを掲示し理解していたできるようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度初めに年間予定を立て、参加予定の方に次回の会議の日程を早めにお知らせするなど、定期開催できるよう取り組みを続けている、参加者の方からは行事へのアドバイスや他施設での取り組みの話を聞かせて頂いている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて事故報告や、会議、研修や手続きなどで分からないことの確認を行ったり、助言をいただいている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束についての委員会があり、その会議録を全職員が回覧し、拘束のないケアの重要性や拘束につながっているケアはないか、会議などで不明点を確認している 転倒予防など、ほかの方法がない場合には、家族に必要性の説明や承諾を得てベッド柵などを使用している。定期的な見直しも行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修に参加し、内容を会議の際に報告し職員の意識向上に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加して職員を中心に、必要な方には活用できるように準備している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面接や入居契約時などに時間を十分とって説明し、不明点を残さないようにしている。また入居後も不明点などあればいつでも聞いてもらえるよう伝えている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との日ごろの会話の中や、家族の来訪時の話の中で出てくる要望などを反映している		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や申し送りを活用して意見を聞くようにし、取り組めるものから検討し行うようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況に合わせた勤務形態を配慮したり、管理者から伝える内容で把握してもらっている。法人主催の催しで楽しめたり、研修でも知識を深める機会を持っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内や研修の資料を職員全員が見られる様回覧をしている。またミーティング時に職場内での勉強会を行ったり、職員の経験年数等に応じた外部への研修参加の機会も作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域包括支援センター主催の研修会へ参加したり、打ち合わせ会に施設の代表者が参加するなど交流を行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望時、ご本人やご家族に見学に来ていただき、棟内やほかの入居者の生活のようすを見てもらい、希望する生活や不安な点を聞きホームができる対応について伝えて不安を解消してもらえるように努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や見学の際に話を出来る場を設けている。不安やわからないことがあればいつでも連絡をもらえるように伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と相談しあう中でニーズを把握し、提供できるサービスを提案し進めるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、食事の下ごしらえや、畑仕事等の日常生活を共に行うことで、知恵を出していただいたり、助けて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に在宅中の様子を聞いたり、ホームでの様子を伝えるようにしている家族の希望やホームでの現状を理解しあえるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた地域へのドライブや買い物など馴染みの場所や人と触れ合えるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席などに配慮するとともに、個人のペースや個性を尊重しながらも、利用者同士で楽しめる活動を考え、コミュニケーションがとれるよう配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の訪問も快く迎えたり、入院中に見舞い等も行っている。また移った施設への情報提供も行い、新しい場所でも安心した生活が出来るよう支援している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向に沿えるよう個別の趣味活動や生活リズムを大切にしよう心掛けている、ケアプランの中にも刷り込んだり、ミーティング等で全職員で情報の共有をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や入所後に家族から生活歴を教 えて頂き把握に努めている、在宅中に法人内 のサービスを利用していた方は様子なども教え て頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の 現状の把握に努めている	利用者の能力や好みなど把握し活動内容や体 調に合わせた活動時間を考慮して対応してい る		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作 成している	家族、医療職を交えたスタッフ同士で話し合い を行い、体調の留意点やどのように生活したい かなどを考え取り入れるようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に取り組んだ結果を記録して毎月 のミーティングや普段から職員間で工夫したい ことなどを話し合い、継続したケアが出来るよう 努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応 して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援や サービスの多機能化に取り組んでいる	法人病院と連携し、ニーズに合わせたサービス や訪問診療、検査、リハビリが受けられる様対 応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本 人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽し むことができるよう支援している	行事の際にボランティアの方を招いて余興をし てもらったり、地域の七夕祭りや高齢者文化祭 に作品を出品、また近くの酒蔵に見学へ行ったり 散歩に出かける等楽しめるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得 られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切 な医療を受けられるように支援している	法人病院と連携をとり、隔週で訪問診療を受け ている、看護師は毎日の健康状態を確認し、体 調不良時や急変時にもスムーズに対応できて いる		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づ きを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談 し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよ うに支援している	医療連携で、担当看護師が日々の状態や健康 管理を行い、体調の変化を報告、相談すること で主治医との連携が図れ迅速な対応ができて いる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当の看護師と連携し、ご家族や入院期間と情報交換、話し合いを行い、退院後の体制についてスタッフ間で検討し適切に行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族に24時間体制で病院と連絡を取れることを入所時に説明している、重症化した時も、本人や家族へ看護師や医師から十分な説明、話し合いを行い医療との連携を行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿って状況に応じて対応できるよう助言、指導を受けており、急変時は看護師や医師と連携をとり指示をおおいでいる		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練があり、地域の民生委員、包括の職員の方にも参加してもらい入居者と一緒に避難動作を行い確認、訓練している、またミーティングで反省点、改善点など話し合っている		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活環境を踏まえて、プライバシーに関しては居室で対応したり、言葉使いや声掛けの仕方にも工夫している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを決め付けず出来る限り理解し、表出しやすい環境作りを心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個人の生活ペースに合わせ、その時の体調や気持ちを考慮しながら活動休息が出来るよう心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回の訪問理容のサービスを利用し定期的に散髪している、季節に応じて衣類の入れ替えや好みの服が着られるよう支援をしている、爪や耳の手入れも入浴後などに行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は希望の献立を用意している、配達していただいた食材と一緒に確認したり、仕分けてもらったりしている、もやしのひげ取りやお膳拭き等も手伝ってもらい食事が楽しみになるよう支援している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立てているので、禁食や嚥下状態に応じた食形態も工夫している、水分チェックも行い体調に豪わせ飲み物を工夫するなどしている、食事量に応じた補食や、提供時間の工夫を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行って、義歯の定期的な洗浄や磨き残しのある方は介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をつけることにより排泄パターンの把握や尿意便意やサインの見逃し防止に努めている、排泄失敗時にも羞恥心や自尊心に配慮を心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し朝食時の牛乳や入居者に合った水分や食べ物(ジュースやコーヒー、乳酸飲料、アイスクリームなど)を促しながら適度の運動で排便が自然に出るよう心掛けている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	個人個人の体調や事情(受診、外出、面会、気分など)その時の気持ちを考慮したうえで、その都度曜日や時間を変更し対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠の状態を把握し不眠時等の際は、眠くなるまで職員のそばで過ごしてもらったり、話の相手をするなどして、安心して眠れる様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の効用などを薬剤師や医療職に確認したり、調べるようにしている、服薬の際には職員2名でダブルチェックを行い、自分自身でも声に出して確認する等誤薬予防に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭で行っていた、茶碗拭き、お膳拭き、おかずの盛り付け等のお手伝いや、たこ焼き、クレープなどのおやつ作り、年末にはお供えもち作り、そば打ちなどを行い季節を感じて頂けるように努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調などを考慮し外気浴、買い物、ドライブなど出来るだけ外にできる機会を作れる様心掛けています、昨年から近くのお店に行ってソフトクリームを食べたりすることも増えた		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はホームで行っているが、外出時は自分の好きなものを選ぶ楽しみやお金を払う機会を持てるよう努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向や要望に沿いながらできない部分を補助する形で相手と会話が出来たり、連絡が取れるよう支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるよう、生活感や季節感などを取り入れ利用者と一緒に作成した作品を食堂や壁などに飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂だけでなく、廊下や詰所前のソファ等自分の好む場所でもくつろげるようにしている、		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を考慮し使い慣れたものや、好みの物、家族の写真、思い出の品や本人が作成したものを活かして入居者が安心して過ごせるよう心掛けています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりなどを完備し、バリアフリーで安全に配慮された作りになっている。居室、トイレに看板を付け、自立した生活が送れる様工夫している		

目標達成計画

事業所名 グループホームライラック
作成日：平成 31年 1月 24日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	35	昨年も課題としていた災害時の対応だが、今年は法人とも話し合い、マニュアルを作成しようと取り組んでおり課題とする	色々な災害時に対応ができる様にマニュアルと備えなどを整える	・災害発生時の法人との連携についてマニュアルを作成する。 ・災害時の必要物品を検討し常備する。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。
注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。